

「多文化交流プラザ」から

地震などの災害が発生したときには、多文化交流プラザに「岐阜市災害時多言語支援センター」が設置されるをご存知でしょうか。母語による情報提供や避難所への通訳派遣など、情報不足や孤立によって不安になりがちな外国人被災者に安心していただけるよう、お手伝いします。



避難所巡回訓練の様子

「岐阜市立中央図書館」から

7月16日(土)に、岐阜県出身のミステリ作家で今年1月に直木賞を受賞された米澤穂信さんの講演会を開催しました！岐阜市に住んでいた頃のエピソードや、小説を書くときの思いなどをお話しいただいた後、参加者からの質問にもたくさんお答えいただき、充実した2時間となりました。



VOICE 03

iwappenさん



VOICE 04

oi shopさん



出店者同士で朝の準備を手伝い合ったり、幅広い世代のお客さんと会話をしたり、ローカルならではのひととの距離の近さが、出店してとても楽しかったです！

普段は柳ヶ瀬商店街で出店することが多いので、緑があることや、空間的な開放感が新鮮でした。初めて見に来てくださるお客さんが多くて嬉しかったです！

MEDICOS NEWS

VOL.06

1 「ぎふ古今」の本棚からおすすめの一冊

“旅と文化”をテーマに日本各地で現れては消えていく文化未満の現象を取り上げる「八画文化会館」。そのvol.6が、岐阜を特集した「レトロピア岐阜」です。ほとんどアビールされていない岐阜のレトロな魅力をピックアップした極めてマニアックな一冊。柳ヶ瀬のほか、西柳ヶ瀬のネオンサインや、ハルビン街の成立ち、遊郭や赤線・青線の遺構など、目の付け所が深く、好きな人にとってはどっぷりハマれる本。さあ、あなたはハマれる？ハマれない？



2 図書館で来館者を迎える謎のマシン!?

図書館のエントランスにある、冷蔵庫と電子レンジを足したようなマシンをご存じでしょうか。ガラス窓の中には近未来的空間が広がり、スイッチを押すとゴースと音を立てて青白く発光!さすがメディコスはSF感もすごい。「2022年宇宙の旅」へ、いざゆかん…!?いえ、実はこれ、本の消毒機なのです。コロナ禍を機に導入され、数十秒で本の殺菌、消臭が完了する優れもの。マシンの中で気持ちよさそうに消毒される本を眺めてみてください。



【みんなの森 ぎふメディアコスモス】

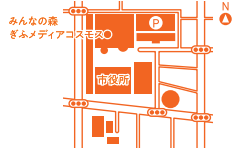
〒500-8076 岐阜市司町40-5

TEL.058-265-4101 <https://g-mediacosmos.jp/>

季刊 メディコス文化道 VOL.06 (2022年9月発行)

発行 / みんなの森 ぎふメディアコスモス

編集・デザイン / さかだちブックス(株式会社トリトルクリエイティブセンター)



MEDICOS BUNKA MICHİ

季刊

文化道

メディコス

VOL.06



【特集】

メディコス開館7周年記念アートイベント

「みんなの森の住人たち」をつくろう！

【岐阜の文化地図】

岐阜駅～金公園エリア



メディコス掲示板「autumn」

総合プロデューサー 吉成信夫からのひとこと。



開館7周年記念「ゆったりカルチャー3days」は、前年のコンセプトをより鮮明にしたことで、内容の幅も盛り上がりも昨年を大きく上回りました。館内でアート作品を創作し、館外ではステージに熱狂。マルシェを楽しむたくさんの人々。同時多発的にこういう動きが共時的にコラボしていたのは、メディコスの「多様性」そのもの。「みんなで楽しむみんなの森」という方向性を今後も大切にします。

「市民活動交流センター」から

開館7周年記念イベントの中で“将来のぎふのまち”をテーマに段ボールに自由に絵を描く「だんだん段ボールタウン」を開催し、144組のご家族に参加いただきました。作品は10月に開催の「メディコスまつり フムドキワイワイ」で展示予定。思い思いに描かれたぎふのまちをご覧ください！



“まちの人”の声

VOICE 01

河合ターニヤさん

ミカくん

モナちゃん

公共空間でパフォーマンスをすることはたまにありますが、ここは広くて綺麗で、やりやすかったです。何より、子どもたちがたくさん見てくれるのがいいところですわ。



VOICE 02

A2Cさん

メディコスにはイベントがあるときに来ていて、今日で4回目。久しぶりに友達に会えて嬉しかったです！子どもたちはパフォーマンスを見るのに夢中になっていました。



開館7周年記念イベント「ゆったりカルチャー3days」で出会った人の声をお届けします！

【特集】FEATURE

メディコス開館7周年記念アートイベント

「みんなの森の住人たち」をつくろう！



メディコスの開館7周年を記念して、2022年7月16～18日に「ゆったりカルチャー3days」が開催されました。館内ではワークショップや、シビックプライドをテーマにしたトークイベントが行われ、広場では土日の2日間で計約100店舗が出店するマルシェ「ミチサカコスモス」が開催されるなど、盛りだくさんの3日間。中でも目玉企画は、アートイベント「みんなの森の住人たち」。岐阜ゆかりのアーティスト6名と11組の一般参加者が、“みんなの森の住人”たちを制作しました。

【講師を勤めた6人のアーティスト】

加藤 誉使子さん

感動の2日間でした！ものづくりの楽しさを教えてもらったような気がします。

早川 文彩さん

参加者のみなさんのものづくりが大好きなんだという気持ち伝わってきました！

新井 真允子さん

しっかりとコンセプトがあるオリジナルティあふれる作品の数々に驚かされました。

中島 法晃さん

これまでメディコスにアートがなかったので、今回がいきっかけになれば嬉しいです。

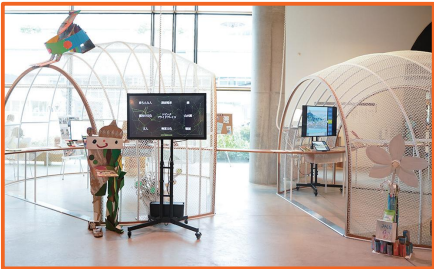
渡辺 悠太さん

無心になって取り組むことの楽しさを忘れず、いろんなことに挑戦してほしいです。

Madblast Hiroさん

ものづくりをする子どもたちの目がキラキラしていたのが印象的でした！





「みんなの森の住人たち」では、初日に6人のアーティストが公開制作を行い、2・3日目に11組の一般参加者が講師らとともに作品制作に挑みました。メディコスでは、今回のように2日間で10時間にもおよぶ、滞在型ワークショップの実施は初めてのことで、参加者たちが同じ空間で同じ時間を共有することで、どんなことが起きるのか。メディコスとしても実験的な企画でした。参加者同士が刺激を与え合い、材料は紙製品の



みという制限の中で、360度どこから見ても楽しめる立体作品を生み出す過程は、講師も驚くほど“アートするエネルギー”に満ちあふれていました。「自宅では親と子の関係ですが、ここでは協同制作者としてのづくりができてよかった」「2日間でへろへろになるくらい全力を出し切りました！」と参加者。完成した“みんなの森の住人”は、作者自身が選んだ展示場所で来館者を出迎えています。ぜひ、会いに来てくださいね！

密着取材！

「みんなの森の住人たち」ができるまで

わたる 前原亘琉くん、政典さん、愛さん

小学1年生の亘琉くんは、普段からのづくりと生きるのが大好き！自宅から色画用紙やお菓子の空き箱といった廃材など材料をたくさん集めて気合い十分の参加です。10時間におよんだ作品制作に密着取材させていただきました！

START

モグラとトンビを作ろうと決めた亘琉くん。モグラをどうやって形にするか考え中…。

2h

モグラが完成！ポイントは動物と地面に見立てた筒状のパーツが分かれていること。

4h

モグラ完成の達成感から、気が変わって、トンビではなく、背景になる森の絵の制作に着手。

FINISH

空とぶ恐竜、ブテラノドン完成！天井から吊るせたいいな…と展示方法も考えます。

7h

2日目スタート！ムササビとブテラノドンを作るために図鑑を持参し、まずは研究。

6h

個性豊かな / みんなの森の住人たち

秋までメディコス館内に展示！



ワークショップ参加者の声

古市 彩花さん

今回のワークショップの講師の1人である大学の先生に声を掛けていただき参加しました。正直、最初はイメージ通りに完成させられるのか不安でしたが、アーティストの方々の協力のおかげで納得いく仕上がりになりました！

寺西 歩果さん

2日間を終え、とても満足しています！私たちが制作した作品は「みんなの気持ちを受け入れてくれる天使」というコンセプトなので、見る人が自分の気持ちを紙に書いて貼ってくれるような参加型の展示になれば嬉しいです。

シビックプライドコラム

from メディコス編集講座

1 岐阜モーニング文化考

岐阜に暮らすなかで「やっぱりここに住んでいてよかったー」と感じるもの、それは喫茶店のモーニングである。喫茶店のモーニングサービスは愛知県一宮市が発祥の地といわれており、名古屋市が有名であるが、岐阜市も負けてはいない。

岐阜市でモーニング文化が花開いたのは、この地で繊維産業が盛んだったからだ。小さな繊維工場には応接室がなく、繊維業者が商談に利用したのが喫茶店だった。そのため、繊維産業の発展とともに、集客を競う喫茶店がサービスを充実させていったのである。岐阜のモーニングは、「気軽に行ける」+「お得に食べる」+「ゆったり過ごす」の3点において、最高のサービスを誇っている。その3つの観点から、岐阜モーニング文化の魅力を考察する。



メディコス編集講座第1期生

小川 真貴子

和歌山生まれ。新潟出身の夫と2人暮らし。趣味は岐阜の喫茶店めぐりと山登り。

全文はこちらから /



2 岐阜大仏様

私はお寺や神社が好きである。なぜかって？それは、心が浄化される気がするから。大仏様を拝むと自分の心を見透かされている気がする。そして、寺にある鐘をゴーンとならす。其の鐘の響きが、胸の奥に染み渡り、心が浄化された気持ちになる。

先日、岐阜大仏を参拝した。大仏殿があるのは岐阜公園西の正法寺(しょうぼうじ)。江戸時代初期に中国から伝わった黄檗宗(おうばくしゅう)の寺院で、黄檗山萬福寺の末寺である。十一代惟和和尚が大釈迦如来像の建立を図り、十二代育宗和尚がその意思を継ぎ、38年の歳月を費やし、天保3(1832)年に本尊が完成した。約190年前、大地震と大飢饉の慰霊のために二代にわたる住職が各地を鉢鉢して完成させた所以も、興味深く感じる。



メディコス編集講座第1期生

テルミン

岐阜をこよなく愛し、人との繋がり大切にしています。只今、郡上おどりにハマっている「踊り大好き女」。

全文はこちらから /





